木霊

2月11日

Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

2月11日のおはなし「木霊」

勇者ターラン・トーランの全身の傷は108あると言われ、腕と言わず脚と言わず胴体と言わず顔と言わず、どこもかしこも皮膚が縫い目に埋め尽くされている。埋め尽くされているというよりも、むしろ縫い目を継ぎ合わせていくと、そこにターラン・トーランの形が浮かびあがってくる、とでも言いたいような有様だ。

年こそとったがターラン・トーランは依然として健在である。愛犬のピーニョを連れて毎日村をのし歩いている。名前の愛らしさに反してピーニョは獰猛な狼犬で、飼い主のターラン・トーランに負けず劣らず全身傷だらけだ。ただ、誰がそんな可愛い名前をつけたのか知りたくても本人には聞かない方がいい。過去に幾人かがターラン・トーランに向かって、ピーニョなんて可愛い名前をつけたのはターラン・トーラン本人かと面白がって尋ねたが、全員半死半生の目に合わされている。

ピーニョと名前をつけたのはターラン・トーランの死んだ娘だ。酷い目に合って死んだあの気の毒な娘だ。その死に関してはいまなお村の年寄りが口をつぐむような陰惨なものだったらしい。娘に関することで、間違ってもからかうようなことを言ってはいけない。娘が死んだのはもう三十年も昔のことだが、ターラン・トーランの怒りと悲しみは変わることがないのだから。

そんな調子なので、年をとったと言ってもターラン・トーランの喧嘩っ早さは変わらない。傷の数はこれからももう少し増えるのではないかと噂されているが、最近ではさすがに老人に向かって本気で突っかかるものもいなくなったためか、ターラン・トーランが縫うほどの怪我をすることは滅多になくなったようだ。

若い頃は本当に無茶なことばかりしていたらしい。村の居酒屋で飲んで暴れるくらい日常茶飯事で、隣村の美人を口説きにいって見とがめた土地の男たちと乱闘になって十数人を叩きのめしたり、山奥の吊り橋の下に潜んでいた魔物と格闘して瀕死の状態で戻って来たり、そしてあのシビリグズリの戦いでは単独行動で迷惑をかけまくった上で、ある日敵将の生首を持ち帰って来ていくさに終止符を打った。このようにして勇者の称号を得ることになったわけだ。

先月のある朝早く、ターラン・トーランはピーニョを連れてわたしの家の前を通った。畑で青虫をとっていたわたしにターラン・トーランは元気よく挨拶し、わたしもそれに応じた。その時わたしはターラン・トーランの姿がちょっといつもと違って見えることに気づいた。よく見ると足元に何か引きずっている。ピーニョが面白がってそれを食わえて遊んでいる。どうした、勇者ターラン・トーラン、縫い目がほどけたか。そういうと彼は機嫌良さげに、そうさな、傷が90くらいに減っちまったと言った。そして腹を揺すりながら大声で笑いながら山の中に入っていった。

それを最後に村ではターラン・トーランを見かけた者はいない。みんなはターラン・トーランがまたどこか他所の村で問題を起こしているのではないかというけれど、わたしは縫い目がみんなほどけて消えてなくなってしまったのではないかと思うのだ。その証拠に、風の強い日などたまに縫い目からほどけた糸のようなものが山から吹き寄せてくる。果樹の枝にひっかかって揺れるその糸の様子は、まるでターラン・トーランが腹を揺すって笑っている姿のようにも見える。

＊　　　＊　　　＊

そう話し終えたイメウリ族の語り部の老人は、ターラン・トーランその人のように全身傷だらけだった。我々は話を聞かせてもらった礼を述べて退出した。不意に、小屋の中から老人が声を張り上げた。ターラン・トーランの声を聞きたかったら、山で大きな声を出すといい。谷向こうから返事がくるから。試してみるといい。それは木霊じゃないですかと言おうと小屋の中を覗き込むと、奥に引っ込んだのか、老人は姿を隠してしまった。老人が座っていたあたりに縫い目からほどけた糸が丸まって、いろりのそばで揺れていた。

[illegible]

（「縫い目」ordered by ariestom-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

感謝の言葉と、お願い＆お誘い

　Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？　もしも気に入っていただけたならぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブクログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

　「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそこのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

　現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→公開中の作品一覧

　SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「Sudden Fiction Project Guide」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

　ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、Facebookページなどに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

　読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

　10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「急募！お題　この秋Sudden Fiction Project開催します」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！　はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

　こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひご一緒に盛り上がってまいりましょう。

奥付

木霊

http://p.booklog.jp/book/43824

著者 : hirotakashina
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/43824

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/43824

公開中のSudden Fiction Project作品一覧
http://p.booklog.jp/users/hirotakashina

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.